

取材対応者 総務部次長 高瀬 正信様
 営業 2 部 1 課 松村 治樹様
 取材・執筆 群馬大学理工学府知能機械創製理工学教育プログラム
 1 年 相川 真之介
 群馬大学社会情報学部情報行動学科
 3 年 三浦 大亮
 獨協大学外国語学部英語学科
 4 年 田中 智也

企業概要（事業内容、強み、特徴など）

北関東の企業向けに制御機器を販売する商社である。オムロン制御機器販売店として総合技術商社として、以下の3つを軸にしている。

①Solution：これからのモノづくりの現場での高い生産性、コストダウン、労働安全、環境対策などのFAニーズにオムロンフルライン商品の提供、オムロンとの最新の製品情報・技術情報の連携。また、当社独自のシステム提案を活用し、課題解決により支援。

②Support:必要なものを必要な時にクイックレスポンスで届ける、オムロン商品の品揃え、物流面での支援。

③Supplier：数社の制御機器、半導体、オンボード部品の数々の購買業務を代行。電子部品、機構、コネクタ・ハーネスは10万点の取扱実績、多品種・少ロットでの注文に対応している。

強みとしては2000社近い取引先、取扱いメーカーも400社を超えており様々なニーズに対応できる形を取っている。過去の5年間の実績は、増収・増益となっており、前年度は過去最高利益を達成した。



企業の主な目標（企業理念、取り組み、経営戦略など）

経営理念は、①使命：北関東の製造業の発展に貢献し続ける。②姿勢：お客様の満足に十分にちえ続ける。③規範：確かな技術と喜ばれるサービスを提供し続ける。商社の必要性が弱まりつつある現代社会で、株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーションは独自の技術を取り入れた「No.1の総合技術商社」としての立場を確立していきたい。営業力・技術力の上



昇による競合他社との差別化を今後の経営戦略に掲げている。

社員の心構えとして、「あるべき姿の実現」「自ら行動すること」を基本理念としている。

課業は営業、技術、事務の三つに分かれている。特に技術職は、8名おり会社の頭脳集団になっている。お客様のニーズに合わせて、カスタマイズを行っている。最近の要望として多いのは、取引先への技術支援・指導、社内にお客様を呼んで指導することもある。また、平和島の倉庫から商品の1dayデリバリーを実現しており、早急な対応も取れる体制を取っている。

役員、社員のお話（インタビューのまとめ）

入社4年目の松村様から、入社経緯や仕事の厳しさ等についての、話があった。「元々営業に挑戦をしてみたいと思っていた。入社してからは、担当を持ったが1年目ということもありまだまだ知識は足りてなかった。前任者と比べられるのは正直厳しかったが、上司に相談したり、知識取得を頑張ることで乗り越えた。納期の調整も営業には求められる。営業を通してお客様が何を求めているのかを考え、それを満たし感謝された時にやりがいを感じる」と話されていたことが印象的だった。



次長の高瀬様からの話の中で「求める人材は、誠実、思いやり、一期一会、主体性、チャレンジ精神、冷静の要素を持った人」とのこと。採用試験は面接のみで人物重視である。

学生から見た魅力（職場環境、やりがいなど）

「人」は会社の最大の財産「人財」・・・人を大切に育てていこうと考えている。技術商社ではあるが、文系出身の社員の方が多い。研修制度は充実しており、オムロンアカデミーで技術職は3年、営業職は2年研修を実施。その他各メーカーによる商品研修、外部機関によるテーマ別研修等、全くの未経験でも研修を通して、学べる。

研修制度が充実しているので、安心して仕事をしていける環境が整っていると感じた。

職場環境は事業所にもよるが、フロア全体の仕切りがなくアットホームな空間になっている。上司との距離も近く、わからないことは何でも聞ける壁のない上下関係が築くことが出来る点が良いと思った。

学生へのメッセージ

誰でも仕事を始めれば0からのスタートだから、専門知識等なくても大丈夫！！

会社に入ってから、研修や実践で身に付けます。学生の皆さんには、今しかできないことをたくさん経験し人間力を磨いて下さい。

取材訪問の全体をとおしての感想

文系出身の自分にとって、製造やITなどは自分とは関係のない業界だという先入観を持っていたが、ほとんどの社員の方が文系出身で専門的知識を持っていなかったという話を聴き驚いた。自分では行かなかった業界だと思うので、今回の企業インタビューで話を聞いて良かったと思う。また、企業説明会とは違って、今回は気兼ねなく会社の人に仕事のやりがいや、企業の求める人材などの素朴な質問をすることが出来たので、このような機会はとても重要だと感じた。

印象的だったのは、株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーションはみどり市に本部がある中小企業だが、リーマンショックなどのアメリカや中国などで起こる世界的な出来事によって、物理的にもものすごく距離が離れていても大きな影響を受けているという事だった。

ネットの普及により、商社不要論がでてきている現代で株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーションは独自の技術で特別な商社を目指しており、社内でも新規事業等を検討されている。情報化が進む社会の中で新しい会社の在り方を模索することはどんな業界でも避けられない課題になるのだろうと感じた。